

2022年3月期第2四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2022年3月期第2四半期決算説明資料

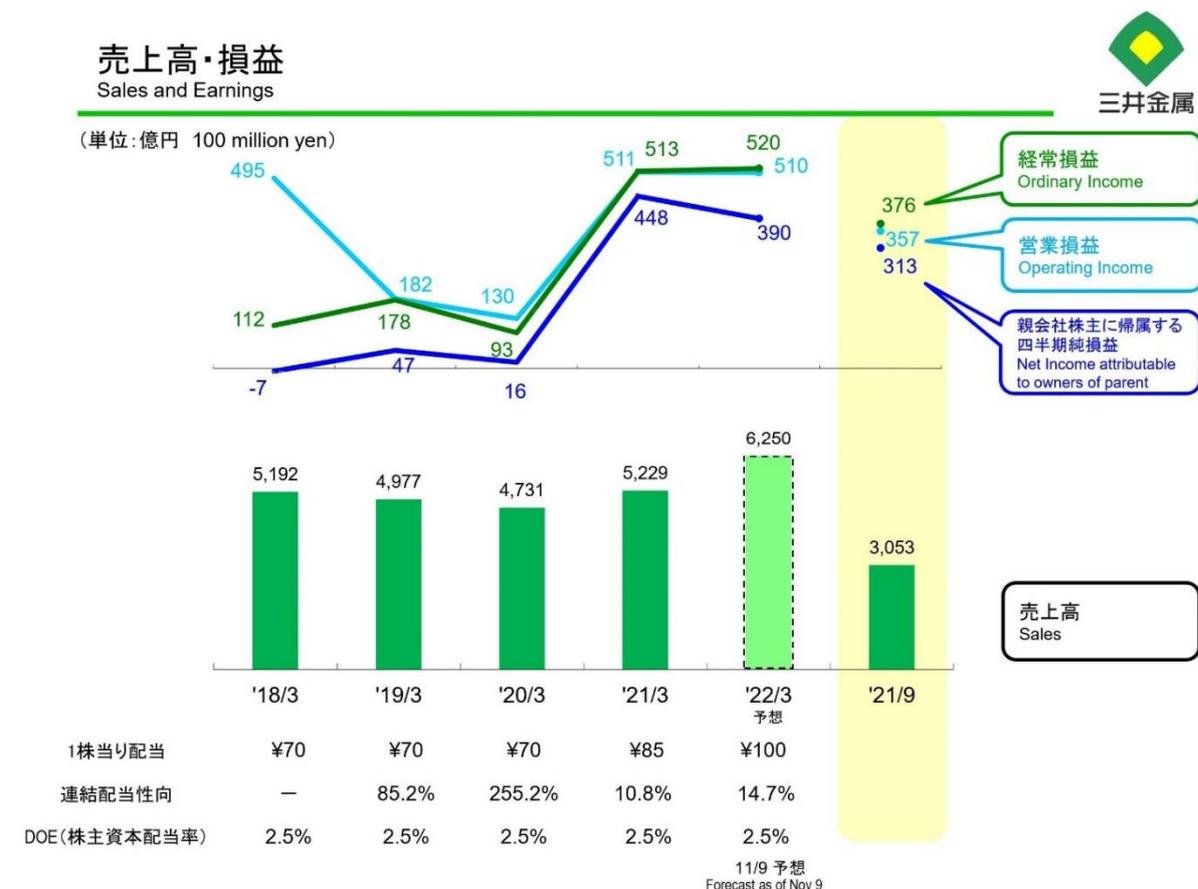
[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=flhv0CwTBmw%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=flhv0CwTBmw%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=flhv0CwTBmw%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード (High Density Interconnect)

■ご説明



決算説明資料1ページ「売上高・損益」をご覧ください。

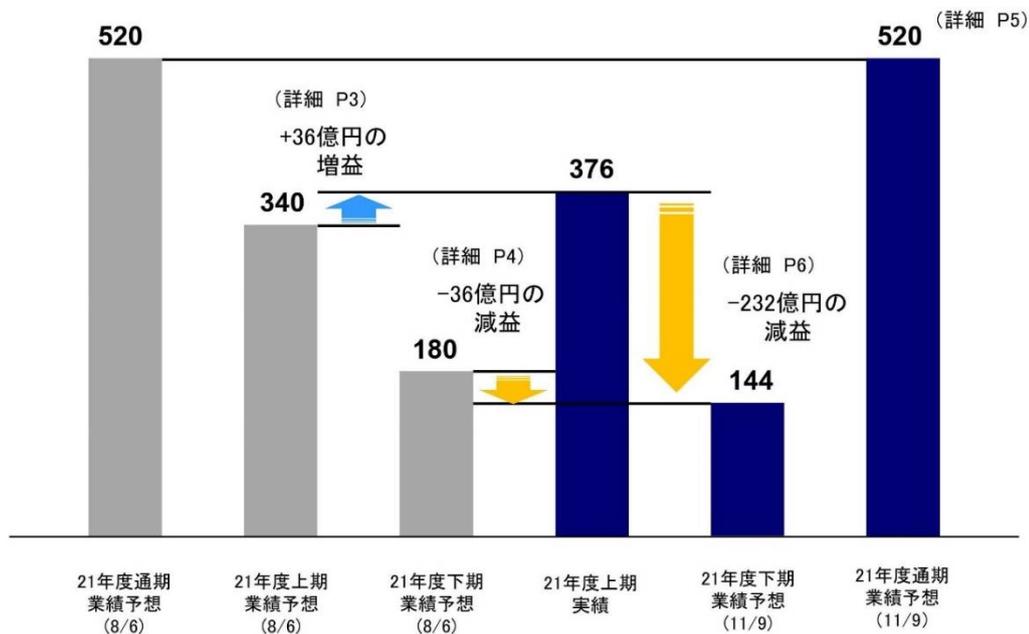
・2022年3月期第2四半期累計の売上高は3,053億円、営業利益は357億円、経常利益は376億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は313億円となりました。

・なお、2022年3月期の連結業績予想は、売上高6,250億円、営業利益510億円、経常利益520億円、当期純利益390億円と見込んでいます。

・配当につきましては、これまで1株あたり85円としておりましたが、15円引上げ1株当たり100円いたしました。

21年度の経常利益は前回予想比と同額を見込む

(単位:億円)



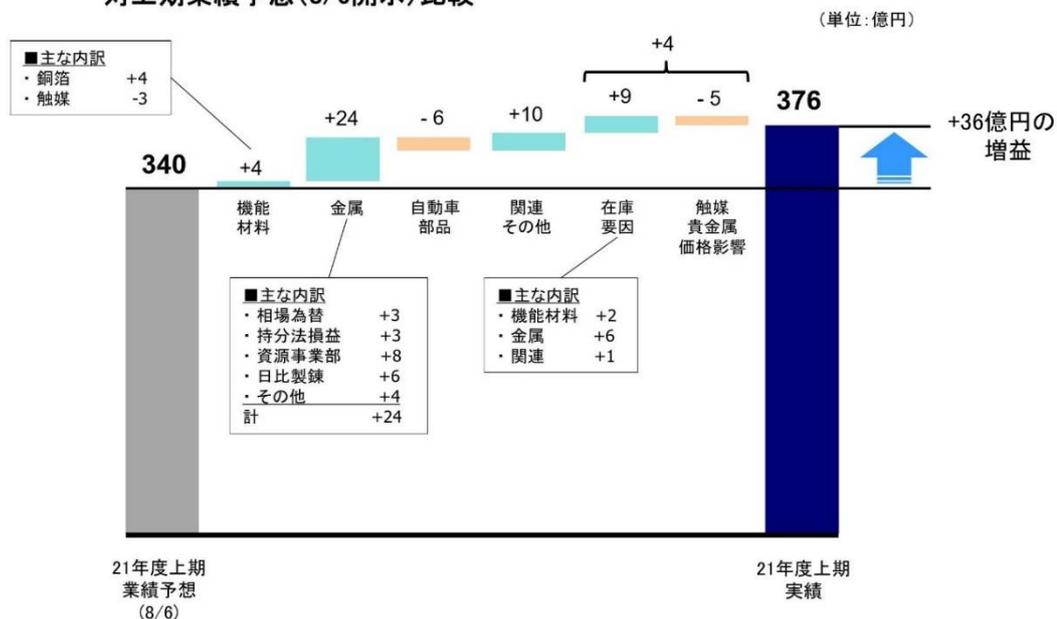
決算説明資料2ページ「21年度経常利益」をご覧ください。

・第2四半期累計期間の経常利益は、8月6日に開示した340億円から36億円増益の376億円となりました。一方下期の予想につきましては、上期の実績から232億円減益の144億円を見込んでいます。通期の予想につきましては520億円のまま据え置きました。

・それぞれの要因につきまして次ページ以降でご説明いたします。

21年度上期経常利益は376億円と前回業績予想比で+36億円の増益

対上期業績予想(8/6開示)比較



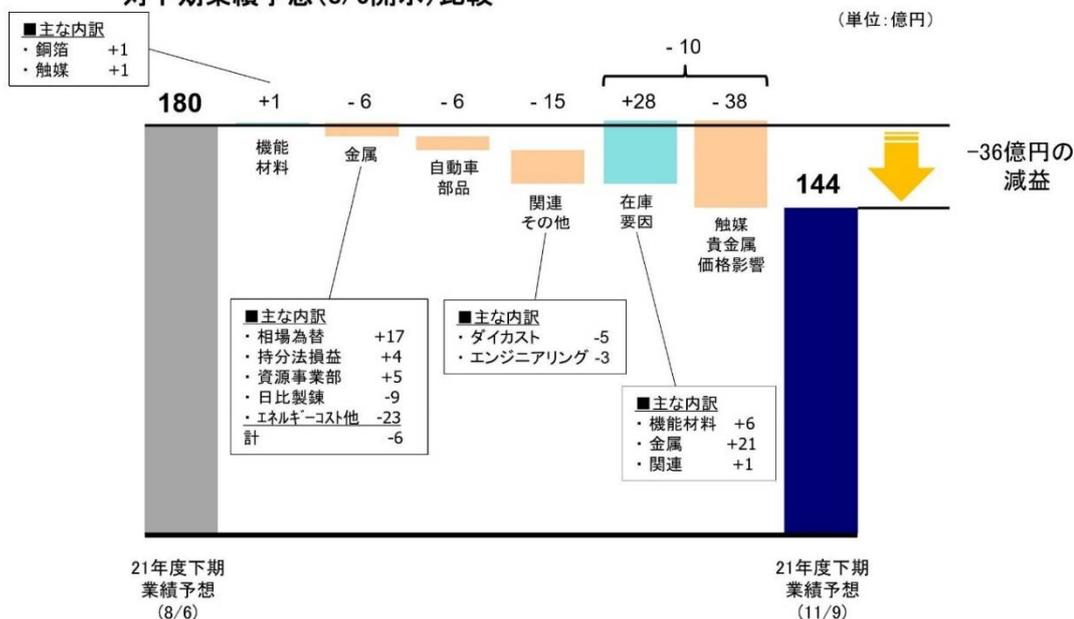
まず上期業績の上振れ要因についてご説明いたします。決算説明資料3ページをご覧ください。

・好転のうち、最も影響の大きかったのが金属セグメントです。24億円上振れましたが、相場が想定よりも高く推移したこと等がその要因です。

・自動車部品セグメントにおいては、半導体不足による自動車販売量の減少に伴う減販の影響が大きく、6億円減益となりましたが、在庫要因等の好転などもあり、全体で36億円の好転となりました。

21年度下期経常利益は144億円と前回業績予想比で▲36億円の減益

対下期業績予想(8/6開示)比較



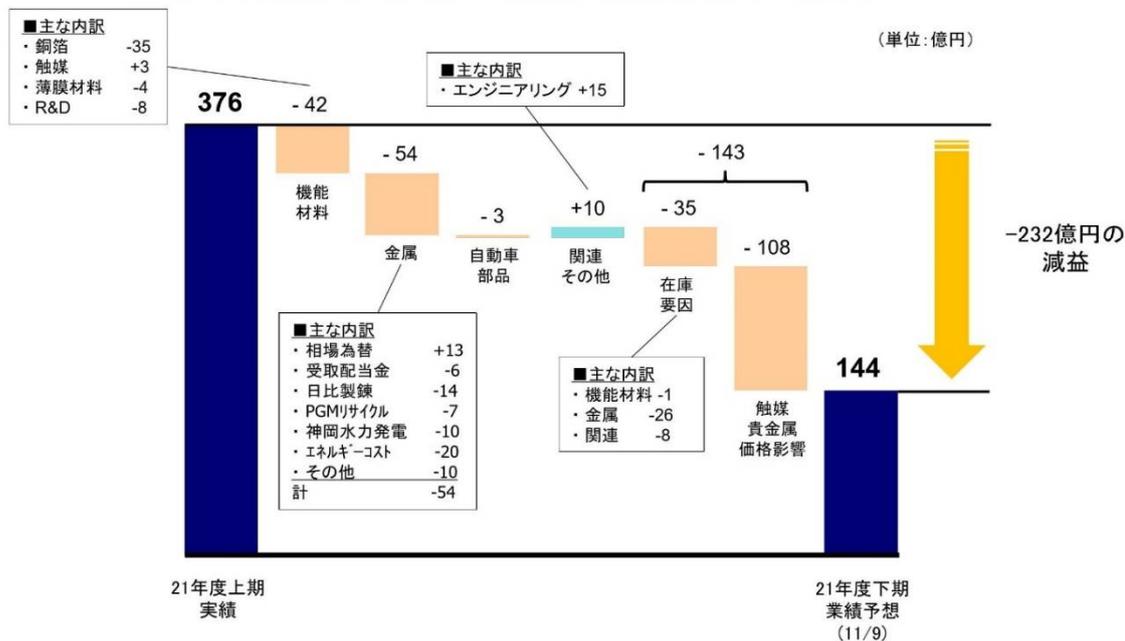
次に下期業績予想の下方修正の要因についてご説明いたします。決算説明資料4ページをご覧ください。

・従来予想より36億円の減益といたしました。金属価格の上昇にともなう在庫要因で28億円の好転を予想しておりますが、一方でロジウムをはじめとする触媒につかう貴金属価格が大幅に下落した影響で38億円の減益となる見込みです。また金属セグメントにおいては金属価格上昇の影響はあるものの、エネルギーコスト上昇によるコストアップ影響が大きく、6億円の減益を予想しています。自動車部品セグメントにおいては上期同様、半導体不足の影響による減販により6億円の下方修正。関連においてもダイカスト事業の収益悪化等の影響で減益をみており、結果的に上期の増益を下期の減益が打ち消す形となっております。

21年度下期経常利益見込 FY 2021 2nd half Ordinary Income Forecast



21年度下期経常利益見込は144億円と上期比で232億円減益を見込む。
232億円の減益の内、在庫要因と触媒貴金属価格影響が143億円。



6

続きまして上期から下期にかけての減益についてご説明いたします。決算説明資料の6ページをご覧ください。

・上期の経常利益376億円から下期の144億円まで232億円の減益を予想しております。要因として最も大きいのは触媒につかう貴金属価格下落の影響です。これにより108億円という大きな減益要因となっています。

・また上期に63億円のプラスで計上していた在庫要因が下期には28億円と35億円のマイナス要因となる見込みです。その他、機能材料セグメントでは主に季節要因で上期比42億円のマイナス、金属セグメントでは相場上昇の好転はあるものの、エネルギーコストアップや神岡水力発電の季節要因等により54億円の減益を予想しています。

・これらの要因により上期から下期にかけては大幅な減益となる見込みです。

損益計算書

Statements of income



(単位: 億円 100 million yen)

	上期 1st half			下期 2nd half			通期 FY		
	2021	2020	増減 Difference	2021 (予想) Forecast	2020	増減 Difference	2021 (予想) Forecast	2020	増減 Difference
売上高 Net Sales	3,053	2,246	806 35.9%	3,197	2,983	214 7.2%	6,250	5,229	1,021 19.5%
売上原価 Cost of sales	2,395	1,836	559 30.4%	-	-	-	-	-	-
売上総利益 Gross Profit	657	410	247 60.4%	-	-	-	-	-	-
販売費・管理費 SG&A expenses	300	251	49 19.4%	-	-	-	-	-	-
営業利益 Operating Income	357	159	199 125.1%	153	353	-200 -56.7%	510	511	-1 -0.2%
営業外収支 Non-operating income/expenses-net	19	-18	36	-9	19	-28	10	1	9
経常利益 Ordinary Income	376	141	235 166.8%	144	372	-228 -61.2%	520	513	7 1.4%
特別損益 Extraordinary profit/losses-net	9	131	-122	-7	-97	89	2	34	-33
税引前利益 Net Income before income taxes	385	272	113 41.7%	137	275	-138 -50.3%	522	547	-25 -4.6%
税金費用・非支配株主帰属損益 Income taxes & minority interests	72	33	39	60	66	-6	132	99	32
親会社株主に帰属する 当期純利益 Net income attributable to owners of parent	313	239	75 31.2%	77	209	-132 -63.3%	390	448	-58 -12.9%

7

第2四半期累計期間の実績と通期の見通し等についてご説明いたします。決算説明資料7ページの「損益計算書」をご覧ください。

・第2四半期累計期間は、前年同期に対し、金属価格が上昇したこと等により、売上高は806億円(35.9%)増加し3,053億円となりました。同様に、営業利益は199億円(125%)好転の357億円、経常利益は235億円(166%)の好転で376億円、親会社株主に帰属する純利益は75億円好転の313億円となりました。

・通期見通しについては、第3四半期以降の相場を亜鉛3,300ドル/t、為替相場を1ドル112円で見て、経常損益520億円を見込んでいます。

セグメントの業績(1) 機能材料

Performance by Segment – Engineered Materials



(単位: 億円 100 million yen)

	上2021 1st Half	上2020 1st Half	増減 Difference	下2021 (今回予想) Forecast 2nd Half	下2020 2nd Half	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference
■売上高 Sales	1,312	860	452	1,168	1,217	-49	2,480	2,078	402
■営業利益 Operating income	200	92	109	50	173	-124	250	265	-15
■経常利益 Ordinary income	196	83	112	44	182	-137	240	265	-25
※実力損益 Real Income	189	85	103	38	171	-132	227	256	-29

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

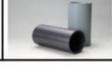
経常利益の増減説明

['上2020 → '上2021 + 112]

触媒 +47 (貴金属価格差他)
銅箔 +40 (MicroThin™増販他)
薄膜材料 +17 (在庫要因、販売単価差他)

['FY2020 → 'FY2021 予想 - 25]

触媒 -81 (貴金属価格差他)
銅箔 +35 (MicroThin™増販他)
薄膜材料 +12 (在庫要因、販売単価差他)

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・電気自動車向けリチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> ・各種電子部品 ・ガラス研磨材
触媒	 <ul style="list-style-type: none"> ・二輪車・四輪車排ガス浄化用触媒
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> ・高密度パッケージ材料 ・プリント配線基板
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> ・フラットパネルディスプレイ



続きまして、セグメント毎の状況についてご説明いたします。

まずは機能材料について決算説明資料16ページの「セグメントの業績(1)機能材料」をご覧ください。

・上期の経常利益は前年同期比で112億円増益の196億円となりました。増益要因としましては、触媒事業において、二輪向け触媒の販売数量が大幅に増加したことや、貴金属価格が上昇したこと等により47億円の増益。銅箔事業においては、MicroThin™の販売数量が約30%増加したこと等により40億円の増益。また薄膜材料の在庫要因の影響が2億円のマイナスから7億円のプラスと9億円好転したこと等によります。

・通期の予想については前年同期比で25億円マイナスの240億円と見込んでいます。マイナスで一番大きいのは触媒事業で、81億円の減益と見ております。これは主に貴金属価格が下落した影響によるものです。一方銅箔事業においては、MicroThin™の販売数量について、前年同期比で22%の増加が見込まれること等の影響により対前年35億円の増益となる見込みです。

セグメントの業績(2) 金属

Performance by Segment – Metals



(単位: 億円 100 million yen)

	上2021 1st Half	上2020 1st Half	増減 Difference	下2021 (今回予想) Forecast 2nd Half	下2020 2nd Half	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference
■売上高 Sales	1,099	880	219	1,211	1,056	155	2,310	1,936	374
■営業利益 Operating income	166	90	76	99	147	-48	265	237	28
■経常利益 Ordinary income	175	81	94	95	147	-52	270	228	42
※実力損益 Real Income	128	57	71	74	100	-26	202	157	45

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

金属価格・為替の推移 Metal Prices and FOREX

	'20/Q1	Q2	Q3	Q4	'21/Q1	Q2	下21 今回予想
亜鉛 Zn	\$/t	1,959	2,340	2,631	2,748	2,916	2,991
亜鉛(実効) Zn (Actual)	\$/t	2,113	2,404	2,624	2,705	2,845	2,893
鉛 Pb	\$/t	1,670	1,876	1,903	2,020	2,127	2,341
銅 Cu (暦年表示 Q1:1-3月)	¢/lb	256	242	296	325	385	440
銅 Cu (Q1:4-6月)	¢/lb	242	296	325	385	440	425
為替 US\$	yen/\$	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	110.1
為替(実効) US\$ (Actual)	yen/\$	107.8	106.7	105.0	106.2	109.6	110.2

2021年度年間損益感応度(経常損益)
Sensitivity to ordinary income (for FY2021)

	(億円 100 million yen) フルオープン	予約含む
亜鉛(LME) Zn	±100\$/t	11.9
鉛(LME) Pb	±100\$/t	2.8
為替	US\$(yen/\$)	±1yen/\$

経常利益増減分析

	上2020 →上2021	FY2020 →FY2021予想
相場・為替	37	70
T/C条件(亜鉛)	-17	-39
たな卸資産在庫要因	23	-3
持分法損益	34	40
コース	0	-14
受取配当金	-15	-19
その他 ※	32	7
合計	94	42

※その他の内訳

['上2020→'上2021 +32]

・八戸製錬大定修 +14、資源事業 +12、亜鉛操業差 +11
日比製錬 -6、

['FY2020→'FY2021予想 +7]

・八戸製錬大定修 +14、PGMリサイクル -17
資源事業 +22、亜鉛操業差 +12、エネルギーコスト -21 17

続きまして金属事業セグメントです。決算説明資料17ページをご覧ください

・上期の経常利益は前年同期比で94億円増益の175億円となりました。増益要因としては、まず金属相場上昇および円安の影響が大きく、これで37億円のプラスです。内訳としては金属相場上昇で32億円、円安で5億円です。また持分法損益で34億円の好転となりました。前年度25億円のマイナス要因となっていたカセロネス銅鉱山の影響がなくなったことが主な要因です。さらに棚卸資産の在庫要因が前年比で23億円のプラスとなったことも大きな増益要因となっています。

・通期の予想に関しては、前年同期比で42億円の増益を見込んでおります。こちらも金属相場上昇および円安の影響が大きく、70億円のプラスを見込んでいます。内訳としては金属相場上昇で54億円、円安で16億円です。マイナスサイドとしては買鉱条件の悪化がございします。この影響で前年比マイナスの39億円を見込んでおります。

セグメントの業績(3) 自動車部品

Performance by Segment – Automotive Parts & Components



(単位: 億円 100 million yen)

	上2021 1st Half	上2020 1st Half	増減 Difference	下2021 (今回予想) Forecast 2nd Half	下2020 2nd Half	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference
■売上高 Sales	378	342	36	412	469	-57	790	811	-21
■営業利益 Operating income	0	-12	12	3	26	-23	3	14	-11
■経常利益 Ordinary income	6	-8	14	3	27	-24	9	19	-10

[三井金属アクト]	(主な用途)
自動車部品 	・自動車用ドアロック

経常利益増減分析	上2020 →上2021	FY2020 →FY2021予想
増減販	14	-5
コスト削減	6	17
その他※	-6	-22
合計	14	-10

※その他の内訳

['上2020→'上2021 -6]

・鋼材・樹脂価格上昇 -5、為替差 +5、
一時帰休助成金他 -5、輸送費上昇 -4

['FY2020→'FY2021予想 -22]

・鋼材・樹脂価格上昇 -18、為替差 +8、
一時帰休助成金他 -7、輸送費上昇 -3

18

続きまして自動車部品セグメントです。決算説明資料18ページをご覧ください。

・前年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりQ1に販売量が落ち込んでいたことからの回復により、上期は前年比14億円増益の6億円となりました。

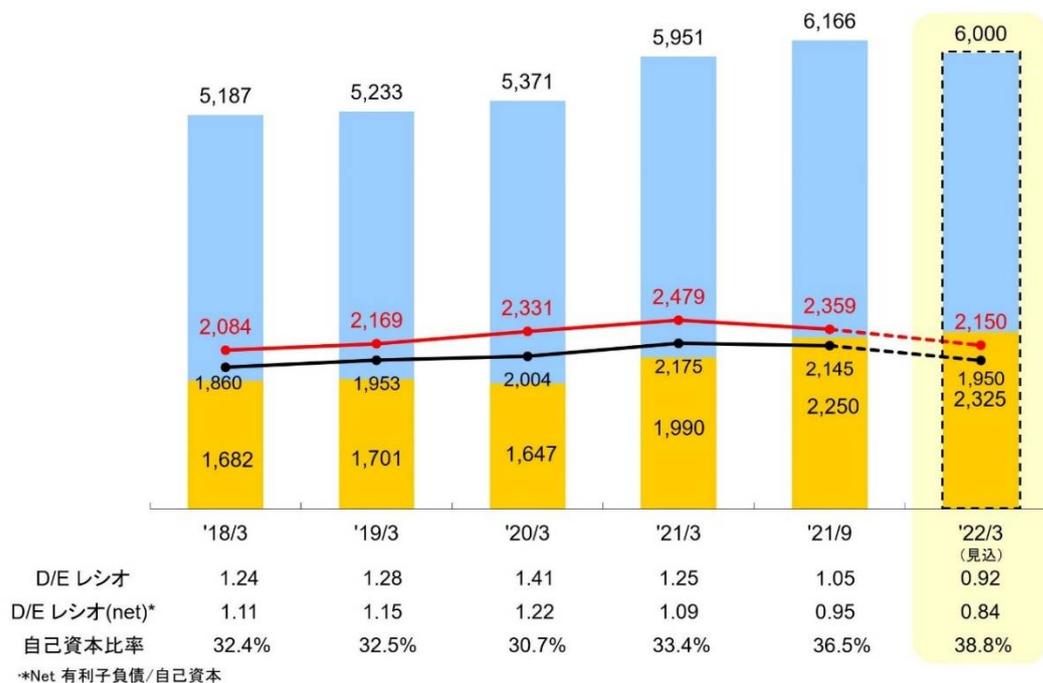
・通期に関しては半導体不足による減販の影響や鋼材・樹脂価格上昇の影響により、対前年比10億円減益の9億円を見込んでおります。

財政状態

Financial Position at Term End



総資産 自己資本 有利子負債残高 Net有利子負債残高 (単位: 億円 100 million yen)



20

最後に「財政状態」についてご説明いたします。決算説明資料20ページをご覧ください。

・下期の予想を織り込んだ年度末の連結自己資本比率は38.8%、ネットD/Eレシオは0.84となる見込みです。

■質疑応答

【全体】

- Q. 下期の実力損益はどのようなイメージでしょうか。下期予想144億円に在庫要因と触媒貴金属価格影響を戻した金額を下期の実力損益と解釈してよいのか。金属市況が変われば実力損益も変わると思うが、来期以降の業績を予想する上でのヒントをいただきたい。
- A. 下期予想144億円から決算説明資料P15の在庫要因28億円と決算説明資料P24に記載している触媒貴金属価格影響マイナス68億円を除いた184億円が一つの目安になる。
- Q. 上期と下期では銅箔などの季節要因があるので、20億円から30億円ぐらいの段差があるとなれば、半期の実力損益は先ほどの184億円にプラス30億円ぐらいと考えてよいのか。
- A. そのように考えてよい。
- Q. 下期の実力利益が在庫要因と一過性要因を除いて184億円という説明がありましたが、銅事業の実収差量の10億円が含まれていません。これは一過性要因とは見られていないのでしょうか。
- A. 一過性要因と見ている。ベースになるのが184億円で、それに季節要因などを加味すると、このような要因も入ってくる。
- Q. キャッシュフローについて、上下でかなり段差のある計画となっている。利益は下期にかなり減る一方で、営業キャッシュフローは下期が大きくなる。キャッシュフローと利益の上下の段差の考え方について整理いただけますでしょうか。

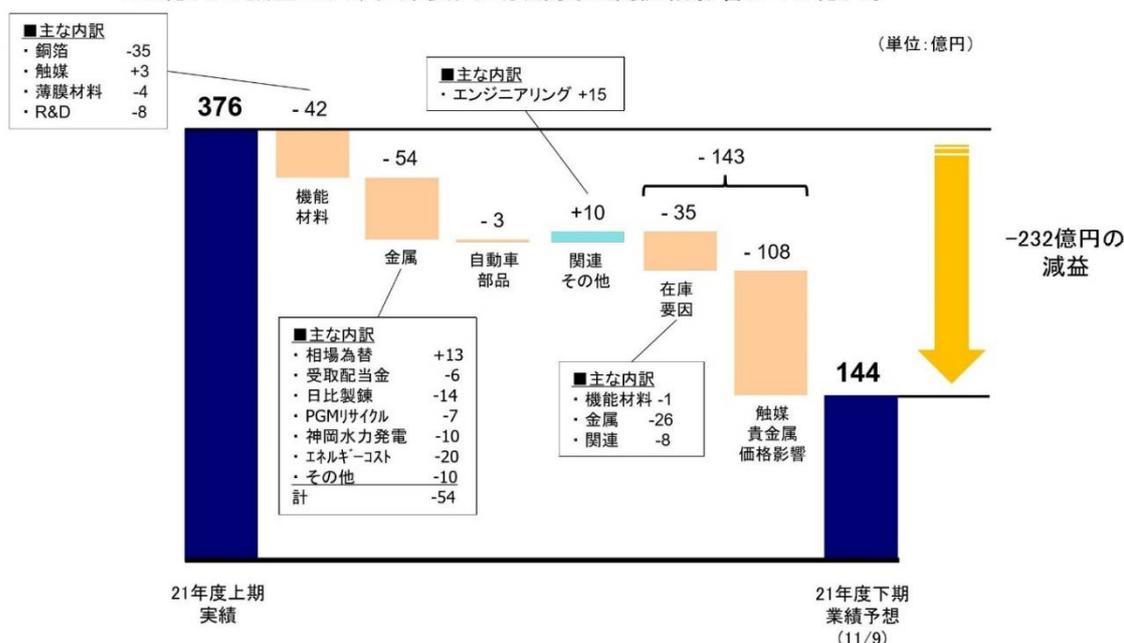
- A. 上期については金属価格等が上昇したことで、売掛金、棚卸資産などのいわゆるワーキングキャピタルが増えたことにより、営業キャッシュフローが厳しくなる数字になっている。一方、下期は金属価格等を一定で見ているため、売掛金や棚卸資産が増えずに営業キャッシュフローが好転すると見ているため、通期では大幅にキャッシュインとなる見込になっている。

【機能材料セグメント】

21年度下期経常利益見込
FY 2021 2nd half Ordinary Income Forecast



21年度下期経常利益見込は144億円と上期比で232億円減益を見込む。
232億円の減益の内、在庫要因と触媒貴金属価格影響が143億円。



- Q. 機能材料事業の上期から下期の動きについて、実力損益が189億円から38億円と151億円悪くなる計画となっている。その内の108億円は触媒貴金属価格影響によるものだが、それ以外で悪くなるのはどのような背景があるのかを教えてください。同様に金属事業についても上期から下期にかけて、実力損益が50億円強悪くなる計画になっているが、この背景について教えてください。
- A. 決算説明資料P6に在庫要因と触媒貴金属価格影響を除いた上期から下期にかけてのセグメントの増減を記載しており、これが実力損益の増減といえると思う。増減の内訳等についても記載しており、銅箔では影響が一番大きいのがMicroThin™、HDI向けが上下で大きく差がでてくる。電解銅箔も通信インフラ向けの減少等があり、35億円悪化のうち減販による影響が過半を占めている。研究開発費も8億円増やす方向で計画しており、薄膜材料(ITOターゲット材)は下期で液晶パネル需要が緩むとみており、上期より減販となる。金属については、相場為替は上期を上回るが、昨年4月から取り込んだ銅製錬所(日比製錬)で差量が下期に減る見込みであり、日比製錬マイナス14億円のうちマイナス10億円が差量の影響。神岡水力発電は上期の発電量が下期より多いためマイナス10億円、エネルギーコストのアップでマイナス20億円、その他原料の構成差などで上期より下期が悪くなっている。以上が54億円悪化の主な内訳。
- Q. 機能材料セグメントについて、この7~9月期決算では諸物価の上昇によるコスト増やエネルギー高によるコストプッシュが1つテーマになっているかと思う。物価上昇によるコスト増加の影響があったのか、あるいは下期に顕在化してくるリスクはないのでしょうか。また、その時にはしっかりと価格に反映できるという理解でよいのでしょうか。

- A. 物価上昇によるコストアップについて、特に7～9月において機能材料では大きな影響は見られなかった。一方、自動車部品ではQ2も引き続き鋼材価格が高く、自動車部品の収益を圧迫している大きな要因になっている。下期は更に上昇する見込みであり、価格転嫁は残念ながらなかなか難しい状況にある。機能材料で気になる物価上昇は銅箔の電力代。下期の見込でも若干のコスト増を影響として織り込んでいる。銅箔について、電力代の上昇を価格に転嫁していないが、適正なマージンが取れなくなった時には、値上げをお願いする方向になると思う。鋼材価格の影響については機能材料では軽微なため、大幅に上がると全くないとは言えないが、大きな影響はないと考えて頂いてよい。
- Q. MicroThin™の通期の販売量が前回予想から下方修正されているが、HDI向けとPKG向けそれぞれについて、足元の状況と先々の展望で何か分かっていることがあれば教えてください。
- A. HDI向けについては、下期が前回予想から若干減の見込みではあるが、上期が増えていることもあり通期では微増の見込み。要因としてはスマホ生産台数増加による影響と考えている。PKG向けについては、前回予想から若干減っている。上期にHDI向けを作っているマレーシアでCOVID-19の影響により6割人員で操業を行ったため、日本の上尾工場からバックアップを行った結果、Q2のPKG向けが若干減少した。この減少分は下期に後ろ倒しとなっているため実際のQ2はもう少し高い数値になっている。下期は前回予想と比較してスマホ向け、非スマホ向けともに少し減速感があるが、指数では下期も139あり、高い水準が続く見通しとなっている。
- Q. PKG向けが前回予想と比べるとスマホ向け、非スマホ向けとも減速感があるとの説明があったが、下期の指数では前回予想とあまり変わらない、減速感についてももう少し詳しく教えてください。
- A. 数字的には前回予想と比べて変わらないように見えるが、先ほど説明したとおりHDI向けをバックアップした結果、PKG向けがQ2で減少し下期で増える形になっており、指数ベースで概ね7くらいの影響がある。下期の指数が139のため、実際は132程度のレベル感となり、前回予想と比較して1割弱ほど減少している。ただし、景況感としては高水準がまだ続いており、去年の数字と見比べると、受注の水準は高いと考えている。
- Q. 上期にそのような影響があったのに、前回予想から上振れている理由を教えてください。
- A. 数量減の影響以上にコスト減があったため。
- Q. マレーシアのCOVID-19の影響について、MicroThin™だけでなく電解銅箔でも影響があったのではないと思うが、影響がどのくらいあったのか教えてください。
- A. マレーシアは7月以降、COVID-19の影響で1週間操業停止などがあり、電解銅箔でもマレーシア工場の主力製品であるフレキ向けが前回予想から15%くらい数量が減っている。直接的な影響はその程度であり、8月半ば以降から通常操業に戻っているため下期以降は影響がないと考えている。
- Q. MicroThin™のHDI向けについて、北米系スマホメーカー以外の拡販に向けてのサンプル出荷の状況や引き合いの状況についてアップデートがあれば、教えてください。
- A. 北米系スマホメーカー以外の新規拡販については、今のところ中華系スマホメーカーの1社が採用を検討している段階ですが、まだ採用が決まったわけではない。
- Q. 触媒の貴金属価格影響について、決算説明資料P16に下期のロジウム等の前提値が記載されているが、この価格で推移した場合、来年度については下期の影響額68億円がそのままなくなると考えてよいのか、今後この価格水準が続いた場合の来年度の影響について確認させて下さい。
- A. 下期はパラジウムを2,138\$/oz、ロジウムを14,719\$/ozとにおいて、その価格が下期続いた場合の影響を試算しており、その結果マイナス68億円の影響となる。これは貴金属価格が上期から下がっている中で、上期の触媒の販売量が計画よりも非常に落ちてしまったため、高簿価品の在庫が滞留した影響が大きいと考えている。来年度については、価格が一定で推移すれば、この影響は無くなるとご理解ください。

- Q. 年間での触媒貴金属価格影響は上下合わせてマイナス28億円の影響となっているが、貴金属価格が横ばいであれば、来期を考える上では単純にマイナス28億円がゼロになるという理解でよいか。
- A. その通り。

以 上